

平谷こども発達クリニックにおける “ディスレクシアの診断・療育”



平谷美智夫

開催期間 (令和7年3月1日～3月31日)
録画視聴期間 3月1日～31日
質問解答視聴期間 3月10日～31日
質疑応答 (ZOOM) 3月22日 (土) 10:00～11:30

第7回 ディスレクシアセミナー IN FUKUI

プログラム内容

基礎編 (ディスレクシアとは) : ケースを通して多彩な臨床症状を理解する (初心者対象) 60分

診断システム

- ① 平谷こども発達クリニックにおけるDDを診断システム
- ② 遠隔地 (福井県外) 受診希望者のオンラインを利用した診断システム

第1部 : DDの学業支援 (デイジー教室開設に至る道と初年度の成果報告)

- 話題 1 デイジー読解教室
話題 2 デイジー英語教育
話題 3 認知カトレーニングによる算数力への効果検証研究の結果報告

第2部 : DD生徒の合理的配慮の実態とICTを活用した支援

- 話題 4 DD生徒の主に定期テストや入試など学力診断場面での合理的配慮の実情と問題点
話題 5 DD児の学校における学習面の支援や合理的配慮について事例考察

第3部 : DD支援におけるICT活用

- 話題 6 福井大学工学部高橋研究室とクリニックとの共同研究から
話題 7 平谷こども発達クリニックICT支援室から

申込先 peatix 第7回 ディスレクシアセミナー IN FUKUI

参加費 一般1000円 ※右側のQRコードよりお申込み下さい。



主催 医療法人平谷こども発達クリニック 福井市北四ツ居2-1409

問い合わせ先 E-mail : hiratani.seminar.2019@gmail.com

講座内容

平谷こども発達クリニック 院長

基礎編 (ディスレクシアとは) : ケースを通して多彩な臨床症状を理解する (初心者対象)

平谷美智夫

ディスレクシア (DD) は知的能力には問題はなく文字に触れる機会が保障されているのにも関わらず、文字をスラスラ読めない障害です。文字を書くことも苦手なのでわが国では読み書き障害と呼ばれることもあります。学習障害 (LD) の一つのタイプです。高い頻度でADHDを合併しますが、ADHDの児童でDDが見逃され、困っている児童が少なくありません。日本ではDDは稀と考えられてきましたが、決して稀ではありません。当クリニックでの診断例は1000例に達しました。

診断システム : クリニックにおける遠隔地利用者DD診断システム (県外患者さんは一回の受診で診断)

自閉スペクトラム症・ADHD・学習障害 (読字障害・書字障害・計算障害) の診断はこどもの特性を理解することであり、特性理解の上に治療・療育があります。当クリニックでは多種類のアンケートやチェックリストをご両親や担任生に記載いただき①十分な時間をかけて経過を聞く=インタビュー ②発達テスト・読み書き検査実施 ③4ページに及ぶ発達プロフィールを完成④プロフィールに基づいて診断説明。⑤結果は保護者から担任にも届ける ⑥DRおよび担当心理士によるガイダンス ⑦療育あるいは投薬 ◆診断のプロセスで担任と情報交換が始まります。県外からの受診を希望される場合、上記①~⑤を県内の方では6回受診していただきますが、オンラインをフルに活用して遠隔地からは1~2回の受診で診断告知できるシステムを開発しました。

第1部 : DDの学業支援 : “デイジー教室” 開設の経緯と初年度の成果

クリニック デイジー教室担当

話題1 : デイジー読解教室 (ICTを活用した長文読解およびタイピングによる解答)

清水宏樹

ICT支援室で子どもたちのタイピング技能は飛躍的に伸びたが、文章を読む力 (読解力) を伴わないタイピングは役に立たないを乗り越えるためにデイジー読解教室を2024.7に開設した。読解教室では、ICT機器を活用し、読解困難を支援しながら学習を促します。読解教材をiPadに取り込み、音声出力にて理解を補助。ICT教育や音声補助は手段であり、個々の学習水準に応じた支援を提供し、SSTの要素も含みます。

名古屋大学大学院 クリニック 言語聴覚士

杉江直哉

話題2 : デイジー英語教室 (日本語音韻体系による英単語記憶法の効果)

DDの生徒の英語の成績は最下位に近く高校や大学入学試験で著しい不利益を被っている。DDはその音韻意識の弱さゆえ、英語学習の第一歩である単語の読みに躓く。DDに対し日本語で使われる音韻体系を活かした英単語学習教材 (和製フォニックス、ローマ字法、音声等) を用いて指導を行ったところ、英単語のデコーディング (文字を音に換える=読み) の正確性、意味の記憶定着が改善した。エンコーディング (文字で表記する) に関しては顕著な改善は見られなかったが、タブレットなどのICT技術を使うことで正しい綴りを画面上より選択し入力することが多くの単語で可能になった。

東京福祉大学 心理学部 教授

成本忠正

話題3 : 認知力トレーニングによる算数力への効果検証研究の結果報告

当クリニックに通院される知的障害のないADHD児童にイメージ課題と短期記憶課題によるトレーニングを実施したところ、イメージ課題を実施した群では計算と図形問題の得点が上昇したが、短期記憶課題ではトレーニング前後で算数の得点は変わらなかった。今後イメージ課題をさらに改良し、より効果的なトレーニングツール開発研究を進める予定である。

第2部 : DD生徒の学校における学習面の支援や合理的配慮について事例考察

クリニック 院長

話題4 : DD生徒のテストや入試など学力診断場面での合理的配慮の実情と問題点

平谷美智夫

DD児童・生徒の80%以上はADHDあるいは自閉スペクトラム症 (以下ASD) を併存している。したがってDD生徒の合理的な配慮を考える時、併存するADHDやASDへの配慮も忘れてはならない。当CLで経験した合理的配慮について検討を加えた。

クリニック 教育相談担当

政井英昭

話題5 : DD児の学校における学習面の支援や合理的配慮について事例考察

DD生徒の入学試験を含む教育現場での合理的配慮はかなり浸透してきているが、その実態を年齢・発達障害診断別に検討し、解決すべき課題を明らかにしたい。クリニックの教育相談や保育所等訪問支援サービスなどを担当している者として、どういった支援・配慮をどのように提案することで、本人にとって良好な支援・配慮となるのか、ここ数年のケースを振り返ってまとめる。

第3部 : DD支援におけるICT活用

福井大学 工学系部門 工学領域 知能システム工学講座 教授

話題6 : 「ローマ字を介さないタイピングアプリとこれまでの経緯」

高橋泰岳

DD児童のICT機器活用のなかでキーボード入力は有力な候補であるが、従来のローマ字を意識させるタイピング練習は難しいため、ひらがなと打つキーの位置を意識させる新しいタイピング練習アプリを開発している。本講座ではこれまでの経緯と最新のアプリを紹介する。

クリニック ICT支援室担当

石丸真一

話題7 : ICT支援室から

読み書き障害のある子どもがデイジー教科書の音読を聞いても意味が分からず、お母さんの音読の方が理解しやすいと感じています。同様に、長文をすらすら読めても内容を理解できないケースもあります。しかし、ICT支援室が考案した「スラッシュ音読」を試したところ、読解問題に正しく答えられました。つまり、読解力がないのではなく、音読の仕方に問題があるのです。